

横浜港港湾計画改訂の検討状況について

1 検討経過

港湾計画とは、港湾の開発、利用及び保全等に関する法定計画で、10年から15年程度の将来における目標貨物量や施設の規模、配置等を定めるものです。今回、国際コンテナ戦略港湾への対応や防災計画の見直し等を踏まえ、横浜港港湾計画を改訂するもので、現在、改訂に向けて、横浜市民、港湾関係者、学識経験者、関係行政機関及び本市関係部局で構成する「横浜港港湾計画検討部会」や「市民意見募集」でいただいた意見を参考にしながら、改訂案の作成を進めています。

2 市民意見募集

- ・パブリックコメント（平成 25 年 11 月 11 日～12 月 10 日）
- ・ヨコハマ e アンケート（平成 25 年 11 月 11 日～11 月 25 日）

意見数	180 件			
内訳	①公共ふ頭計画	28 件	⑥旅客船ふ頭計画	21 件
	②新規ふ頭計画	6 件	⑦大規模地震対策施設	10 件
	③臨港交通施設計画	4 件	⑧環境保全	18 件
	④臨海部における賑わい創出	23 件	その他	62 件
	⑤山下ふ頭の再開発	8 件		

3 港湾計画改訂案

【目標貨物量】

	基準値（平成 22 年）	目標値（平成 30 年代後半）
公共全体貨物量	7,100 万トン	10,500 万トン
うちコンテナ貨物量	5,200 万トン	7,800 万トン
コンテナ個数	328 万 TEU	518 万 TEU

【個別計画案の概要】

（1）公共ふ頭計画

○コンテナふ頭

基幹航路をはじめとするコンテナ船の大型化や貨物量の増加に対応するため、コンテナ取扱機能を強化します。

- ・本牧ふ頭BCターミナルの拡張
- ・南本牧ふ頭MC3、4の岸壁を800mから900mに延伸

○一般貨物ふ頭

主力品目である完成自動車など一般貨物を効率的に取り扱えるようふ頭機能の転換や強化を行います。

- ・本牧ふ頭A岸壁をコンテナから一般貨物の取り扱いに機能転換
- ・完成自動車を取り扱う大黒ふ頭T3～8と隣接するP3、4を一体的に運用できるよう利用転換

(2) 新規ふ頭計画

本牧ふ頭沖に約140haの新規ふ頭を計画し、臨海部に新たな物流拠点の形成を図ります。

- ・超大型コンテナ船に対応する大水深・高規格コンテナターミナルや高度な流通加工機能を有するロジスティクス施設等を配置
- ・市内から発生する公共建設発生土を有効活用し、今後の都市基盤整備を長期的かつ安定的に支援

(3) 臨港交通施設計画

増加する交通量を円滑に処理するため、ふ頭間の連絡機能を強化します。

- ・新規ふ頭に接続する臨港道路の位置づけ

(4) 臨海部における賑わい創出

水上交通や観光船の充実、カヌーやシーカヤックなどの様々な活動やイベントを促進するとともに、水際線緑地の活用や周辺施設との回遊性を強化し、新たな賑わいを創出します。

- ・内港地区や金沢地区にレクリエーション等活性化水域の位置づけ

(5) 山下ふ頭の再開発

市街地との近接性などの優れた立地特性を活かし、内港地区の新たな賑わい拠点づくりを進めます。

- ・大規模で魅力的な集客施設などの導入が可能となる土地利用への転換
- ・山下公園との連続性を考慮した緑地やプロムナードの配置

(6) 旅客船ふ頭計画

日本を代表するクルーズポートとして、客船受入機能を強化します。また、ベイブリッジを通過できない超大型客船に対応していきます。

- ・本牧ふ頭A岸壁を超大型客船が優先的に着岸できる多目的岸壁に転換

(7) 大規模地震対策施設

耐震強化岸壁を配置し、臨海部の防災機能を強化します。

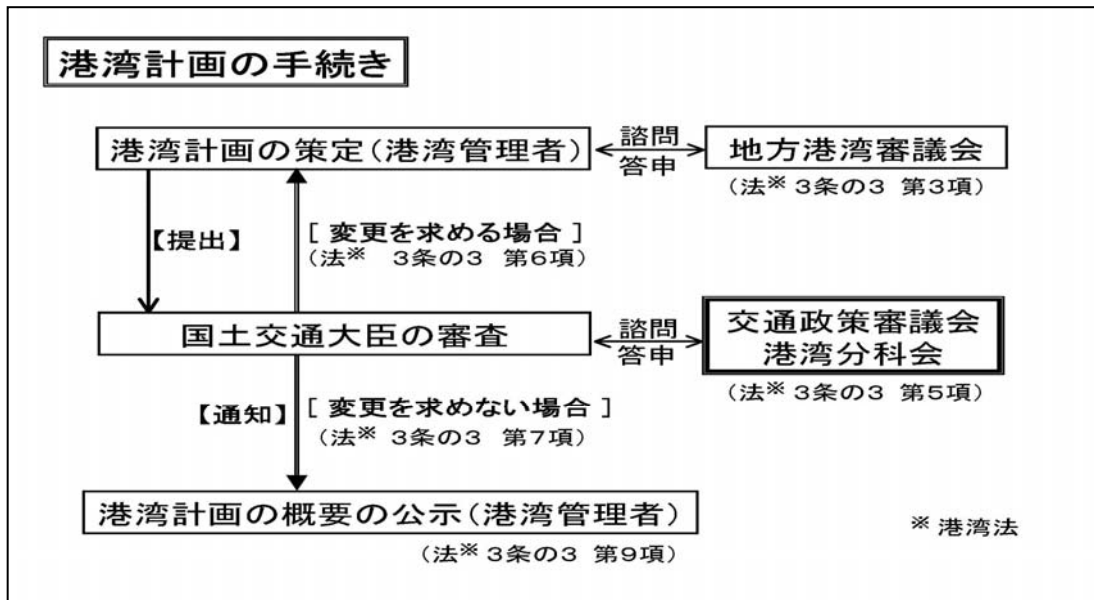
- ・緊急物資の受け入れを行う海上輸送の拠点を配置
- ・発災後の物流機能を維持できるよう、大型コンテナ船が着岸できる水深16m以上の岸壁を耐震強化岸壁として位置づけ

(8) 環境保全

水質の改善、緑地の確保、温暖化対策など環境保全の取組みを推進し、親しみやすく美しい横浜港を次世代へ引き継ぎます。

- ・内港地区や金沢地区に自然的環境を整備又は保全する区域の位置付け

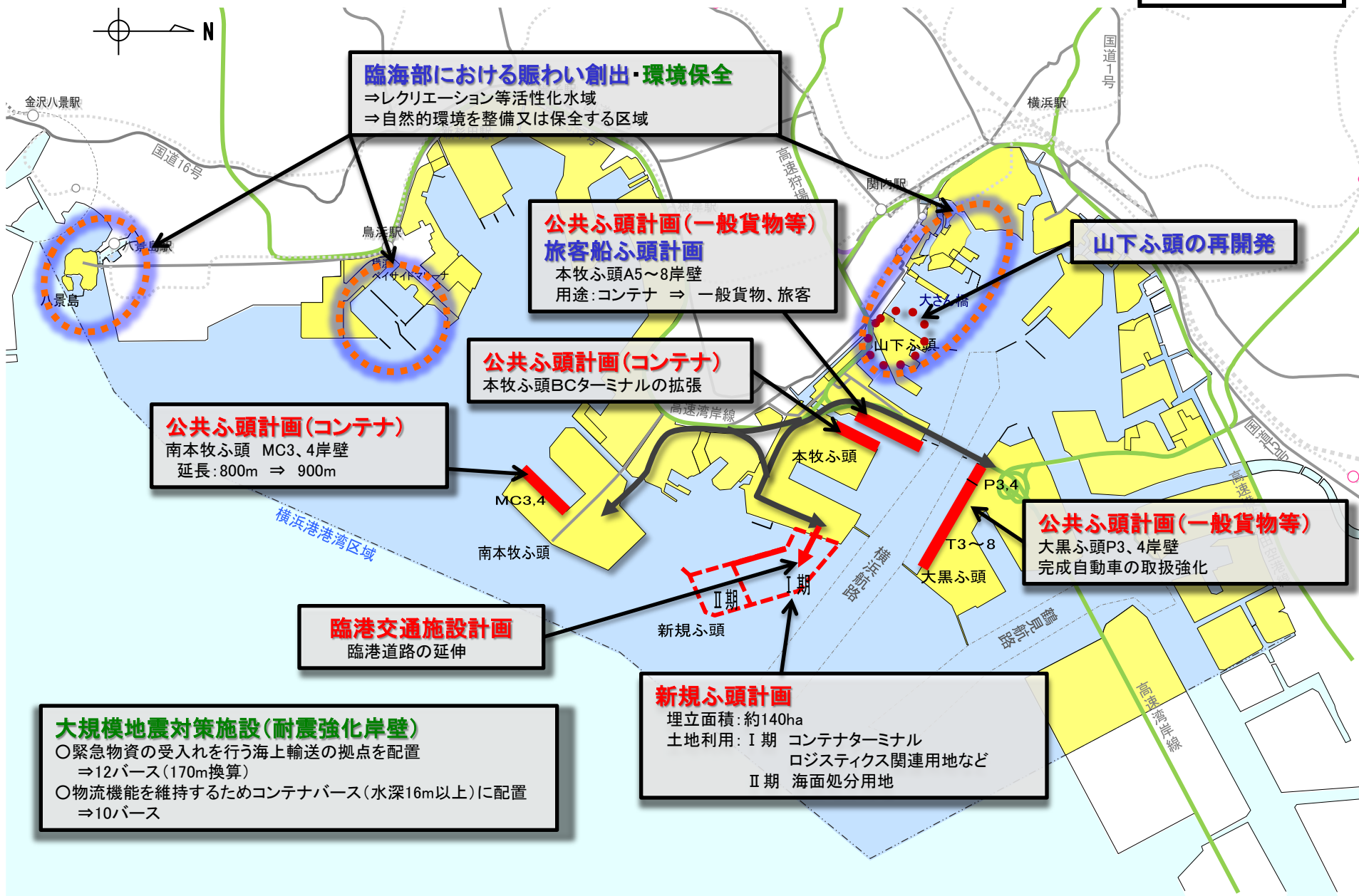
4 今後のながれ



(出典:国土交通省HP・交通政策審議会第1回港湾分科会資料)

本年9月頃に横浜市港湾審議会へ諮問し、その後、国の交通政策審議会への諮問及び国土交通大臣の審査を経て、年内の改訂を目指していきます。

個別計画案の概要



臨海部における賑わい創出・環境保全
 ⇒レクリエーション等活性化水域
 ⇒自然的環境を整備又は保全する区域

公共ふ頭計画(一般貨物等)
旅客船ふ頭計画
 本牧ふ頭A5~8岸壁
 用途:コンテナ ⇒ 一般貨物、旅客

山下ふ頭の再開発

公共ふ頭計画(コンテナ)
 本牧ふ頭BCターミナルの拡張

公共ふ頭計画(コンテナ)
 南本牧ふ頭 MC3、4岸壁
 延長:800m ⇒ 900m

公共ふ頭計画(一般貨物等)
 大黒ふ頭P3、4岸壁
 完成自動車の取扱強化

臨港交通施設計画
 臨港道路の延伸

大規模地震対策施設(耐震強化岸壁)
 ○緊急物資の受入れを行う海上輸送の拠点を設置
 ⇒12バース(170m換算)
 ○物流機能を維持するためコンテナバース(水深16m以上)に配置
 ⇒10バース

新規ふ頭計画
 埋立面積:約140ha
 土地利用: I期 コンテナターミナル
 ロジスティクス関連用地など
 II期 海面処分用地